

2. 恵まれた環境を未来につなぐまちに

みんなで支える、歴史ある活動 ～宮島 海と川の清掃～
地域ぐるみで課題解決 ～アルゼンチンアリの一斉防除～

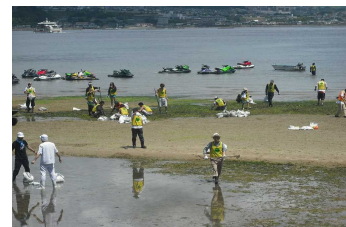
みんなで支える、歴史ある活動

～ 宮島 海と川の清掃 ～

■事業概要

info

宮島では、毎年1回、島民のほか、島外のNPOやボランティア団体も数多く参加し、島内の海と川で、ごみ拾いやアオサの除去、漂流物の撤去を行っています。昨年は18tものごみを回収しました。最近では、24時間テレビ「愛は地球を救う」が協賛しており、メディアを通じて、活動が紹介されています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

宮島で海と川の清掃が始まったのは、なんと昭和40年代。当時は、観光客によるごみのポイ捨てや、不法投棄、また下水道が整備されておらず、もみじまんじゅうに使用する小豆で海が小豆色に染まったりするなど、島の環境に関しては、ほとんど野放しでした。しかし、日本三景の一つとして、このままではいけない、宮島の景観を保全していこうと、宮島町公衆衛生協議会が立ち上がり、この清掃活動を始めました。



蒲田 正之さん

廿日市市宮島公衆衛生推進協議会

海と川の清掃を組織だっけ行うようになったのは、おそらく宮島が県内の先駆けだと思います。最近では、島外から20代、30代の若者のボランティア参加が多数あり、申込が200人を超えることもあります。島内の高齢者では、重くて持てないごみも彼らが持ってくれるので、助かります。

宮島地域では、住民の高齢化が進み、若者も減少しているのです。清掃活動継続の過渡期に入っており、今後のあり方について検討する必要があると思います。



伊藤 正博さん

宮島支所 市民福祉課

ごみ運搬用の車両手配や、道路の使用許可などの手続きは大変ですが、この活動を通し、市民一体となって、宮島地域の環境を守っていききたいです。宮島公衆衛生推進協議会は、歴史、実績のある自慢できる会です。今後もこの会と支所がつながりながら、1+1=2、ではなく3以上に、つまり、それぞれの特性を出し合い、相乗効果が生まれるよう力を発揮することが大切だと思います。会の意思を反映できるよう、これからもサポートしていきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

海と川の清掃活動は、50年近くも続いている歴史ある活動ですが、活動開始当初は、町全体の取組となるまで、理解を得ることに苦労したそうです。しかし、そのときの努力があったからこそ、現在も続いている。この活動を絶やさぬためには、支所の支援が重要になります。

2012.9.11取材

地域ぐるみで課題解決 ～ アルゼンチンアリの一斉防除 ～

■事業概要

info

廿日市市公衆衛生推進協議会の呼びかけにより、同協議会と各町内会連合会及び町内会が協力して、廿日市地域において地域ぐるみで取り組まれています。防除効果を高めるためには一斉に行うことが必須であることから、対象範囲内の市の施設など（公共施設）においても実施しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

不快で生態系にも悪影響を与えるアルゼンチンアリは、平成5年に廿日市市内で初めて生息が確認され、その後も年々生息範囲を拡げており国内の各地で確認されています。防除は、各家庭が個別に取り組むよりも、町内会などのある程度広い区域で一斉に行う方が、効果的であることから、平成23年9月に、廿日市地区町内会連合会がアルゼンチンアリの一斉防除を実施しました。このとき公共施設でも併せて取り組み、一定の効果を上げています。



廿日市市公衆衛生推進協議会

日向 常雄さん

町内会連合会・町内会の役員の皆様と協力し取り組んでいます。

町内会によっては住民の高齢化が進んでいることから、一斉防除をお知らせする文書に、「班長さんは隣近所のお年寄りの方に声をかけてあげてください。」と一筆添えています。町内会の中でお互い協力し合うことが大事です。

また、住みよいまちづくりのためには、行政と町内会の相互の協力が重要です。なぜなら、みんな一人では生きていけませんから。



村田 克己さん

環境産業部 環境政策課

一斉防除マニュアルを作成して市民のみなさんに活用いただいたり、協議会へ資金援助するなど、公衆衛生という切り口で、地域の課題解決に取り組めるようバックアップを行っています。



山本由紀恵さん

町内会の加入率は低い状況ですが、今回のように、ひとつの課題に対して地域ぐるみで取り組み、それが解決につながればその重要性も伝わり、地域コミュニティ再生のきっかけになると思います。

■インタビューを終えて・・・

review

ご近所どうして力を合わせて取り組む大切さを感じました。

これをきっかけに、地域内での連携が進み、地域活動に参加する人が増え、お互い助け合える関係が築かれていけばよいと思いました。

2012.9.11 取材